

Central Japan Quality Control Association

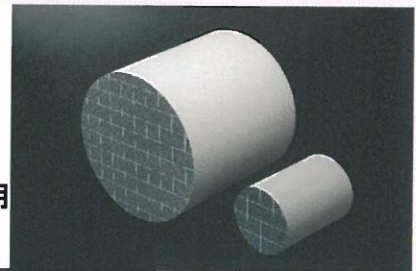
2015.4発行

「モノづくりは、人づくり」

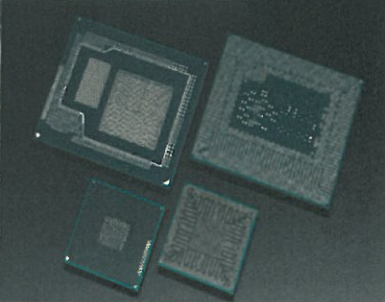


東横山発電所(1921年設立)
イビデン(株)

モバイルパソコン用
ICパッケージ基盤



SiC-DPF
ディーゼル車黒煙
除去フィルター



イビデンは1912年に地域経済の振興を目的に「揖斐川電力株式会社」として設立され、近代工業の基礎となる電力を供給する事業から出発しました。今日ではパソコンやスマートフォン、タブレットPC用のパッケージ、プリント配線板の電子製品や、ディーゼル車の排ガスをクリーンにするセラミック製品を中心として、グローバルに事業を展開しています。創業より時代のニーズを捉えた製品開発に挑み続け、2012年に100周年を迎えました。

様々な困難を乗り越え、地域のために事業を興した先人たちの経験が人と地球環境を大切に、革新的な技術で豊かな社会に貢献するという当社の企業理念の原点となっています。

【内 容】

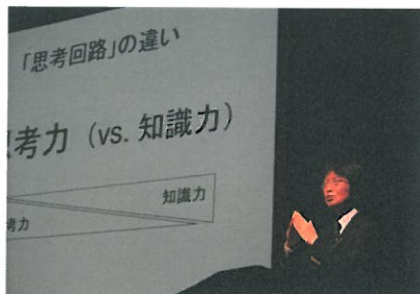
- 1 2015年新春講演会 実施報告
- 2 わが社のQC活動: 東海旅客鉄道株式会社
- 3 協会だより(HPリニューアル、品質コラム 他)



中部品質管理協会『2015年新春講演会』実施報告

【概要】2月1日にウインクあいち大ホールにて、初めての試みとして「新春講演会」を開催させていただきました。佐々木新会長に交代し、当協会をもっと皆様に知っていただくこと、そして皆様へさらなる情報提供、サービス提供をという方針の下、無料で開催。

当日は700名余りにご聴講頂け、当協会会員様、そして一般企業様も大勢ご参加下さり、心より感謝申し上げます。



(細谷氏ご講演風景から)

森 浩三氏ご講演

昔と違い、今はコンピューターの中で仕事がすすみ、他の人の仕事は見えにくく、最終段階まで他者からの修正や補正が難しい時代。しかしながら、企業責任を厳しく問われ、一つのミスが会社存立を危うくする時代でもある。

そんな中、トヨタ自動車の本気で取り組んでいる自工程完結の根っこは、全社をあげて「品質は工程で造り込む」ということであり、これはトヨタ生産方式と同じであるが、意味するところは手法でなく、社員の行動特性そのものであるということ。

「各々が自分の仕事の目的を明確にし、それに照らしながら段取りを十分に行い、自律的に意思決定・進行し、仕事にやりがいを見出して、同じ失敗を繰り返さない“源流対策”をする」という本質を知れば、未然防止型、課題達成型の仕事の仕方、様々なアプローチが、あらゆる仕事のシーンで活用できるようになる。この地域の競争力向上にも役立てたい。

当日実施内容

【開会挨拶】中部品質管理協会会長 佐々木 眞一

【事業紹介】中部品質管理協会 専務理事
岩本 伸夫

【講演1】元 トヨタ自動車(株) 森 浩三氏
「トヨタ自動車の本気で取り組んできた
自工程完結・再発防止とは!!!」

【講演2】ビジネスコンサルタント 細谷 功 氏
「問題解決から問題発見へ～
“攻めの品質”で未来を描く」

細谷 功氏ご講演

問題発見とは何か—それは「知らないことすら知らない領域を認識することから始まる。今や企業を取り巻く環境はグローバル化、成熟化、IT化&ソフト化で、これまでの常識が通じなくなっている。つまり、知識をベースにした専門領域から「素人視点」へとパラダイムシフトが求められているのである。

イソップ童話の「アリとキリギリス」の話は有名だが、変化の激しい時代には、「資産を貯め込むこと」は必ずしもプラス面ばかりではない。「貯め込んだ知的資産」も一夜にして紙くず同然になる可能性があるからだ。そんな時代には、「知識は使うためにあり」「自分の巣を維持することに固執せず」「平面だけでなく、必要とあらば『飛び道具』を駆使するキリギリスの考え方も重要になるのである。これからは「キリギリス」を見出し、殺さないこと。適材適所こそ重要である。

新企画セミナーのお知らせ

☆詳細は当協会のWEBページを御覧ください☆

<http://www.cjqca.com>

2015年度より、森先生と細谷先生が担当の新企画セミナーがスタート！奮ってご参加下さい！

<森 浩三氏の新企画セミナー“トヨタ流仕事の流儀”>

- ①トヨタ流再発防止セミナー[1日] 5月、9月、'16 1月 開催予定
- ②トヨタ流仕事の段取り～自工程完結セミナー[1日] 7月、11月、'16 3月開催予定

<細谷 功氏の新企画セミナー“発想力”を伸ばす>

- ①攻めの品質～問題発見・解決スキルアップセミナー [1日] 6月、10月、'16 2月 開催予定

東海旅客鉄道株式会社

1. 会社発足とQCサークル活動の導入

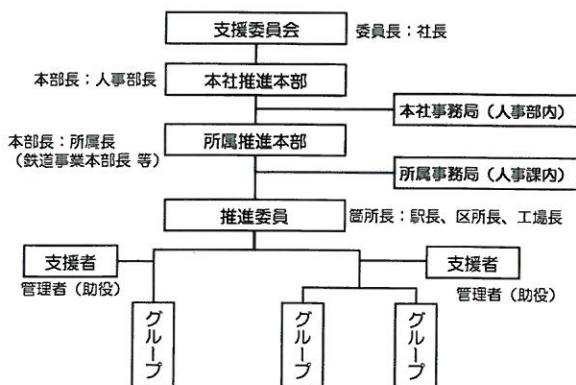
東海旅客鉄道株式会社（以下、JR東海）は、国鉄の分割民営化により、首都圏～中部圏～近畿圏を結ぶ大動脈輸送である東海道新幹線と東海地域の在来線網を一体的に維持・発展させる会社として1987年4月に誕生しました。現在では、東海道新幹線が開業50年を迎えたことから経年劣化や大規模災害に対する抜本的な備えとして、超電導リニアによる中央新幹線の実現に向け着実に取り組んでいます。

会社発足の10月、「社員の能力向上」「職場の活性化」「会社の体質改善・発展」を主目的に、「自主自発的な活動」と位置付け、「何事にも積極的に取り組み、果敢に挑戦する」という活動スタイルから「チャレンジ東海」活動と名づけたQCサークル活動を導入しました。

現在、現業社員の9割が参加し1,200以上のグループが年2テーマ完了を目標として活動しています。

2. 「チャレンジ東海」活動の推進体制

社長を委員長とした支援委員会（役員）により活動方針が決定され、本社および鉄道事業本部・支社の推進本部事務局が具体的な推進計画を策定し、リーダー・管理者への教育や大会運営などの推進業務を行います。



当社の特徴としては、活動の主目的である「社員育成」の観点から推進事務局を人事課内に設置していること。「自主自発的な活動」と「特殊な勤務体系」という条件により活動方針が全社員に浸透し、実践に移るまでに時間を要することから活動方針を3～5年のスパンで設定していることです。また、自らが困っている問題が他系統や関連会社などが関わる場合に、一緒に改善する

“みんなで活動”を「知恵の“わ”改善」とネーミングして展開しています。これまで交流の無かった職場の社員や業務内容を知ることで知識や改善意識が高まり、活動によって生まれた交流が本来業務をより円滑なものにしています。

3. 発表大会



各種発表大会を勝ち抜いたグループは、名古屋マリオットアソシアホテルで開催される全社大会に出場します。この大会は来賓（社外・関連会社）や全役員を含め800名以上が参加して開催します。運輸営業（駅・乗務員）や車両、施設（線路・トンネル等）、電力・信号通信のJR東海の各系統とホテルや清掃業などの関連会社が発表することから、テーマも異常時対応やサービス向上、コスト削減などバラエティーに富んだ大会です。

《表：26年度 全社大会出場グループのテーマ例》

	箇所名	テーマ
JR東海	亀山駅	券売機の不具合件数を減少させる
	沼津運輸区	運転士背面カーテン修繕時間を短縮しよう
	浜松工場	無接点制御装置取付け作業時の負担を減らそう
	掛川保線所	大規模トンネル注入工事の作業を効率的に行おう
	掛川電力所	つる草の伐採回数を減らそう
	大塚信号播備所	CCスッター取替の時間を短縮しよう

関連会社	中央リネンサプライ鋪	モタレの再洗いを減らそう
	錦ジェイアール東海ウエル	新規作業の品質安定化を図ろう
	錦ジェイアール東海ホテルズ	...

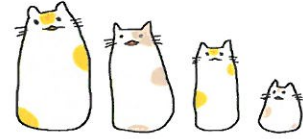
社長の開会挨拶で「チャレンジ東海活動が、今日までのJR東海の発展、成長の基盤を支え、大きな推進力としての役割を果たしてきたと言っても過言ではない」と言って頂けるまでに発展してきました。今後も「社員の成長」と「生きがいのある明るい職場づくり」を目指して活動の一層の活性化を図っていきます。

HPリニューアルのお知らせ



セミナー申込がWEBからできます!! 内容盛りだくさん! ご活用下さい!

URL : <http://www.cjqca.com>



<組織人事変更&新スタッフ加入しました★>

氏名	旧	新
岩本 伸夫	事務局長	専務理事 兼 事務局長
細見 純子	研修事業部課長	経営企画室次長 兼 企画部次長
瀬川 祐紀子	—	(☆1月入社)企画部 兼 研修事業部

furuyaの品質 SAIKOU

「問題解決」はすべての基本

たくさんの「問題」がある。日常の生活では、「部屋が散らかっていて、大事なものが無くなってしまった」「近所の騒音が五月蠅くて、夜も眠れない」等々。会社では、「上司が怒ってばかりで、会社に行きたくない」「売上が急激に落ち込んで赤字になった」等々、いろいろと出てくる。さらに国家レベルでは、「災害の復興が遅れている」「人口減少に歯止めがかからない」など、深刻な問題もある。

ところがほとんどの場合、問題の発生に気付かないか気付いても何もしない。問題を問題として認識していない、今のままで十分で何もしなくても何とかなる、所詮他人事だ、といった有様だ。これではなかなか解決には至らない。

改めて「問題」とは何かを調べてみた。岩波国語辞典では「研究・議論などをして解決すべき事柄。転じて、面倒な事件」とある。ポイントは「解決すべき事柄」であろう。どんなに面倒な事でも解決しようと思わなければ問題とならないのだ。一方、日本品質管理学会規格「品質管理用語」には「…目標と現実との、対策して克服する必要のあるギャップ」と規定されている。したがって「問題解決」とは、ギャップを埋めること、すなわち現実を目標に到達させることを言う。

目標（目指す姿）がどこにあるのかは様々だが、現状を変えて目標に到達することは同じである。このことを表す言葉は「問題解決」の他にも、「改善」「PDCA」「方針管理」「イノベーション（革新）」「戦略の立案と実行」「ビジョンの実現」「質の向上」「価値創造」などたくさんある。これらの意味するところもすべて「問題解決」であり、「問題解決」は一人ひとりが、もしくは企業・組織のトップから第一線までのすべての人々が、成長していくために実践しなければならない極めて重要なもの、すべての基本となっているのである。

[編集後記]「願わくば 花の下にて春死なむ その如月の望月の頃」一待ちに待った桜の季節が来た途端この歌をいつも思い出します。西行の心をこれほどとらえた桜の花。短い期間ながら見事に咲き、そして見る人誰の心をも晴れやかにして、深く散ってゆく。この号が出る頃は、もう桜は散ってしまっているかと思いますが、イビデン様が桜の表紙で飾ってくださいました。皆様にも心こめて美しい桜をお届けします。(細見)

発行元：中部品質管理協会 TEL:(052)581-9841 FAX (052)565-1205 <http://www.cjqca.com>

〒450-0001 名古屋市中村区那古野 1丁目 47-1 名古屋国際センタービル 1 1階